

教員哲学研修について

10月30日の校内研修に向けて職員に配布した資料です。

これまで2年生を対象に哲学対話に向けた授業を、校長先生からスタートしていただき、原田さんが実施してくださっていましたが、10月30日で最後の3回目を迎えます。

その日にあわせて、職員研修として「なぜいま哲学的思考が必要なのか」というテーマで、田畑先生 平等先生 木村先生（3名の方々に关しましては後半をご覧ください）からご講演いただきます。

前回のみんなの授業研のあとの研究協議の中で、6眼モデル（未来↔過去視点、主体↔客體視点、アナログ↔デジタル視点）の中でも、アナログ↔デジタル視点にスポットがあたって話しが展開されていきました。ものごとの全体を見て感覚的につかむのがアナログ視点とするならば、ものごとを筋道立てて見ていくのがデジタル視点だとしたときに、デジタル視点の重要性が全体で確認されました。たとえば子どもをみる時に、その生い立ちや、背景、課題を抜きにすることはできないということは、大正中学校の様々な取り組みを通して確認されています。それがデジタル視点で子どもたちを見るということではないでしょうか。つまり、子どもに関わる複雑な事実を、イメージで捉えるのではなく筋道立てて捉えるということです。

10月23日の大阪哲学学校での講演で、田畑先生はこうおっしゃいました。「1つの見方だけで全体がこうであるというようなものの言い方は、言葉遊びに過ぎない。」「1点だけを見る議論は、意味が無い。」「併存しているということを意識しないとイケない。」「実践は矛盾を抱えなければ、現実味がない。」つまり、『1点だけを見て、「AであるならばBである」というものの見方は、形式主義に過ぎない。様々な内容を反映し、複雑に絡まる背景を見ていくことが、重要である』という事なのだと思います。このことは、目の前の子どもを見るときにも、必要なことなのではないでしょうか。そのような問題意識で田畑先生 平等先生 木村先生のお話を職員研修として聴ければと考えています。

また、そのまま夜に行うWAYプロジェクトにもご参加いただく予定です。

前回のWAYプロジェクトからご参加くださっている土屋さんも来校される予定です。

10月30日（水）の流れ

（12：00ごろ 田畑さん 平等さん 木村さん 到着予定）

（13：15ごろ 原田さん 到着予定）

13：45～15：15 原田さんから2年生を対象に「哲学対話に向けた授業③」

（田畑さん 平等さん 木村さん → 参観

土屋さんは3時前後に来校され、途中から参観される予定）

16：00～18：00 田畑さん 平等さん 木村さん から、職員に向けた講演

テーマ「なぜ哲学的なものの見方が必要なのか」

（土屋さん 原田さん → 参加される予定）

19：00～21：00 WAYプロジェクト

（田畑さん 平等さん 木村さん 土屋さん 原田さん

→ 参加される予定）

講師紹介

【田畑 稔】 大阪市生まれ。大阪大学大学院文学研究科博士課程哲学・哲学史専攻単位取得退学。富山大学教養部助教授（哲学担当）。1998年から広島経済大学経済学部教授（倫理学担当）を歴任し、2002年から大阪経済大学人間科学部教授（人間論、哲学担当）。専門はドイツ哲学、マルクスの研究。季報『唯物論研究』編集長、大阪哲学学校参与、21世紀研究会代表世話人を務める。マルクスが構想した未来社会は国家社会主義ではなく、自立した個人によるアソシエーションであることを明らかにした。著書に『マルクスとアソシエーション——マルクス再読の試み』（新泉社）などがある。

【平等 文博】 大阪大学文学部哲学専攻、大阪大学文学研究科博士課程哲学哲学史専攻を経て、文学博士号を大阪大学にて取得。現在、大阪経済大学人間科学部人間科学科人間科目学科にて教授を務める。日本哲学会会員、社会思想史学会会員、大阪哲学学校運営委員長、21世紀研究会「21世紀叢書」刊行基金理事、NGO法人「アジア女性自立プロジェクト」会員。共著に『現在日本の教育イデオロギー』（青弓社）などがある。

【木村 倫幸】 大阪大学文学部哲学科、大阪大学文学研究科博士課程哲学・哲学史専攻を経て、文学博士号を大阪大学にて取得。現在、国立奈良工業高等専門学校一般教科にて教授を務める。関西倫理学会所属。共著に『哲学・倫理学概論』（学術図書出版社）がある。

【土屋 貴志】 慶應義塾大学文学部哲学科倫理学専攻、同大学院文学研究科哲学専攻、同大学院文学研究科哲学を経て、慶應義塾大学にて文学博士号を取得。横浜国立大学工学部、放送大学、東京電力株式会社東電学園大学部、杉野女子大学において非常勤講師を、大阪市立大学人権問題研究センターにて研究員を歴任し、現在は大阪市立大学大学院文学研究科哲学歴史学専攻にて准教授を務める。日本生命倫理学会において理事などを務めた後、日本倫理学会にて編集委員も務めた。